

グローバル・エマージング・ボンド・オープン【愛称：受取物語】 4月以降の運用状況



追加型株式投資信託/バランス型

市況動向

<エマージング債券市況>

欧米経済指標の予想を上回る悪化を背景に世界的な景気減速懸念が高まったことに加えて、欧米大手金融機関の相次ぐ経営破綻や国有化を背景に世界的に金融不安が一気に高まったことなどから投資家のリスク回避の動きが急速に強まり、エマージング債券市況は、エマージング債券の代表的な指数であるThe Emerging Markets Bond Index Plus(ドルベース)でみると、4月以降20.57%下落しました。(10月末時点)

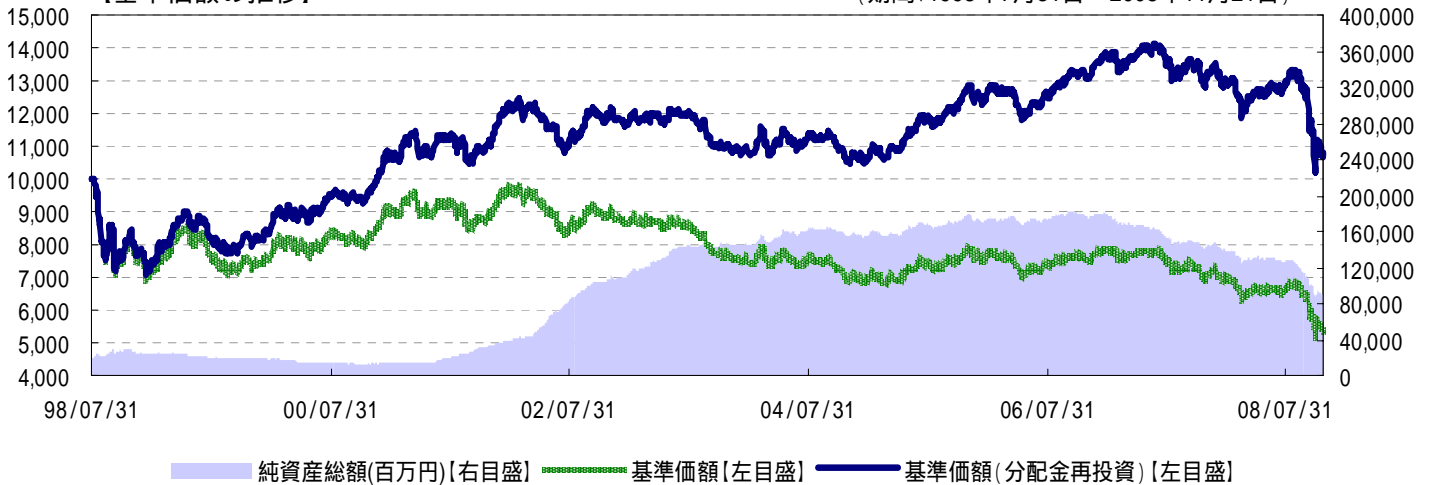
世界的な金融市場の混乱および景気後退懸念を背景とした市場参加者のリスク回避的な動きから信用市場のスプレッドは拡大しました。エマージング市場でも、経常赤字が過大であるなど経済が脆弱な国や、政治的に不安定な国ではリスク回避の動きの影響を受けやすく、スプレッドが一段と拡大しました。The Emerging Markets Bond Index Plus(ドルベース)のスプレッドは、3月末比3.7%の大幅拡大(米国債に対しエマージング債券のパフォーマンスが劣化したことを意味)となり、10月末には6.7%になりました。

<為替市況>

米国の景気後退懸念の高まりと米金利の低下などを背景に、為替市況(円・ドル)は、4月以降1.8%の円高・ドル安となりました。(10月末時点)

【基準価額の推移】

(期間：1998年7月31日～2008年11月21日)



- ・基準価額、基準価額(分配金再投資)は設定日前営業日を10,000として指数化しています。
- ・基準価額および基準価額(分配金再投資)は、信託報酬(純資産総額に対し、年率1.59%(税抜1.52%))控除後の値です。
- ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

基準価額の下落要因

当ファンドは米ドル建てのエマージング(新興経済国)債券と米国債を高位に組み入れた運用を行った結果、エマージング債券市況急落やドル円為替市況の下落の影響を受けました。ただし、金融市場の混乱が続く中で、信用力の高い国債を中心とした保守的な投資姿勢を維持したことから、エマージング債券市況急落の影響を緩和することができました。なお、収益分配金につきましては、基準価額や組入債券の利子等収益を勘案し、8月以降1万口当たり40円から35円に引き下げました。

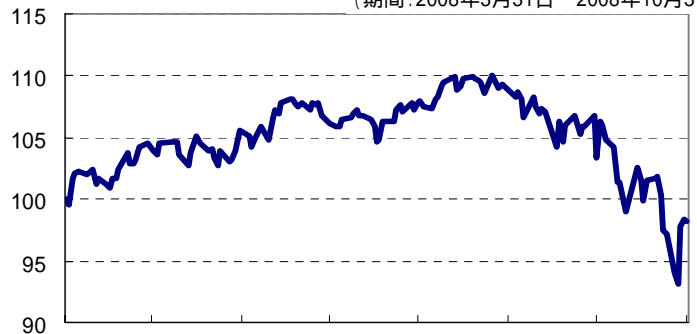
要因分析 (単位：円)

2008/10/31 基準価額	2008/3/31 基準価額	騰落率 (分配金再投資ベース)
5,441	6,457	-12.24%

変動要因	合計	-1,016
	為替	-86
	債券	-603
	信託報酬等 分配金	-265

米ドルの騰落率(対円)

(期間：2008年3月31日～2008年10月31日)



08年3月 08年4月 08年5月 08年6月 08年7月 08年8月 08年9月 08年10月

- ・ファンドの騰落率と実際の投資者利回りとは異なります。
- ・上記数値は概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。
- ・為替の騰落率は、2008年3月31日=100として計算しています。

表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。
基準価額および分配金は1万口当たりです。
債券評価額には、経過利子を含めて(利含み)あります。

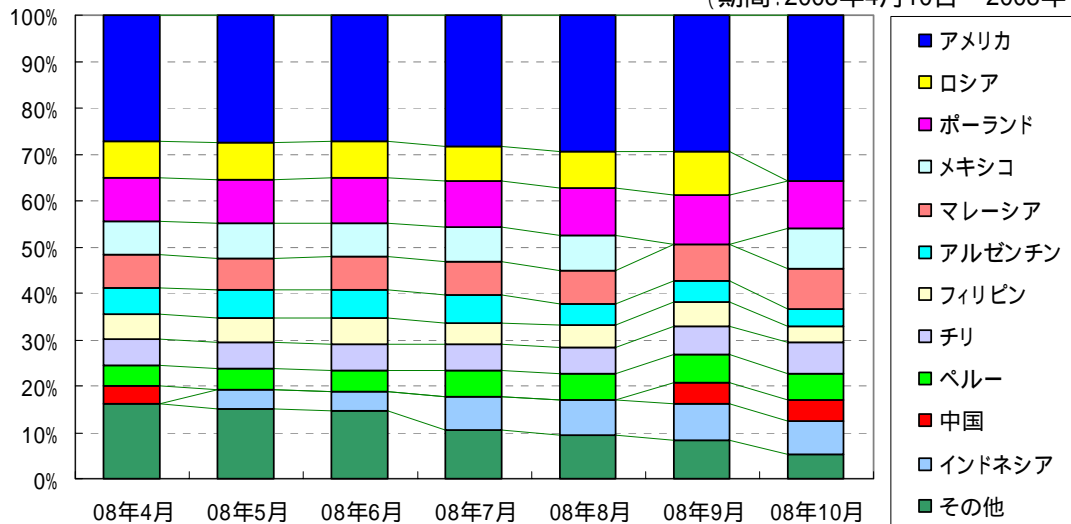
グローバル・エマージング・ボンド・オープン【愛称：受取物語】

投資行動（組入れ国の比率推移）

当ファンドは、金融市場の混乱が続く中で保守的な投資姿勢を維持し、米国債や比較的信用力の高いエマージング債券を選択しました。エマージング債券市場における国別戦略では、比較的価格付けのフィリピンの組入れ比率を引き下げ、大統領と首相の対立により連立政権が弱体化しているウクライナ、インフレの高まりなどから経済成長率が低下している南アフリカを全て売却しました。また、ロシアについては、8月のグルジア侵攻を契機とした国際関係の緊迫化を受けて保有債券を全て売却しました。一方で、比較的信用力の高いメキシコ、マレーシアなどの組入れ比率を引き上げました。

組入れ上位国の推移

（期間：2008年4月10日～2008年10月10日）



・比率は現物債券評価額に対する割合です。

分配金実績（税引前）

116期 (08/4/10)	117期 (08/5/12)	118期 (08/6/10)	119期 (08/7/10)
40円	40円	40円	40円
120期 (08/8/11)	121期 (08/9/10)	122期 (08/10/10)	123期 (08/11/10)
35円	35円	35円	35円

・運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

今後の運用方針と見通し

< 運用環境の見通し >

世界的な景気後退懸念が高まる中、信用収縮は今後も当分継続すると見ており、各国政府は追加対策の実施を迫られると予測します。各国政府による流動性供給により資産の狼狽売りの動きは収束に向かうと考えられるものの、米国における金融不安は依然として解決の糸口が見えておらず、信用市場の混乱は、当面、好転しないと見ています。このような状況下、エマージング債券市場は一時的に反発しても、再度調整局面を迎える可能性が高いと見ています。当ファンドでは保守的な運用を継続しているものの、これまでの調整により魅力的な投資機会が訪れつつあると考えており、今後、同市場がさらなる調整を迎えた場合には徐々にリスク許容度を高めていくことも視野に入れていきます。

< 今後の運用方針 >

当ファンドでは引き続き保守的な運用を行っていく方針です。当ファンドは、比較的保守的な投資スタンスを維持し、米国債を多く組入れるほか、エマージング債券市場において最も信用力が高いと考えられるポーランド、ロシア、メキシコ、マレーシアなどの国債を愛好します。一方、信用力が相対的に劣る国についても、インドネシア、フィリピン、ペルーといった国を組入れ、戦略的に投資メリットを追及する方針です。

コメントは作成時点のものであり将来予告なく変更されることがあります。
 将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。なお、市場の変動等により方針通りの運用が行われない場合があります。
 表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しております。

グローバル・エマージング・ボンド・オープン【愛称：受取物語】

追加型株式投資信託/バランス型

ファンドの特色

- ・エマージング諸国が発行する高利回りの米ドル建て公社債を主要投資対象とし、分散投資します。
- ・機動的に米国国債にシフトすることによってパフォーマンスの安定性を高めます。
- ・各国のファンダメンタルズ分析とクレジット・リスク分析に基づく銘柄選定を基本とします。
- ・原則として毎月収益を分配します。
- ・為替ヘッジは原則として行いません。
- ・運用指図に関する権限は、シュローダー・インベストメント・マネージメント・リミテッドに委託します。

商品概要

設定日 : 1998年7月31日
 決算日 : 原則として、毎月10日(休業日の場合は翌営業日)
 信託期間 : 2013年7月10日まで
 ベンチマーク : 規定しておりません。
 お買付け申込み : 原則として、いつでもお買付け申込み、換金のお申込みができます。ただし、ニューヨーク、ロンドン証券取引所の休業日に該当する日
 中途換金 : については、お買付・中途換金のお申込みができません。
 申込価額 : 申込受付日の翌営業日の基準価額

【お客さまには以下の費用をご負担いただきます。】

申込時に直接ご負担いただく費用
 申込手数料 : 申込価額×3.15%(税抜3%)を上限として販売会社が定める手数料率
 換金時に直接ご負担いただく費用
 信託財産留保額 : 換金申込日の翌営業日の基準価額に0.3%を乗じた額
 保有期間中に間接的にご負担いただく費用
 信託報酬 : 純資産総額に対して、年率1.596%(税抜1.52%)
 その他費用(*) : 売買委託手数料、監査報酬、組入資産の保管等に要する諸費用、先物取引・オプション取引等に要する費用等
 (*)「その他費用」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。
 なお、お客さまにご負担いただく費用等の合計額については、お申込金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。
 (課税関係)原則として、分配時の普通分配金ならびに換金(解約)時および償還時の個別元本超過額に対して課税されます。
 詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

【お申込不可日について】2008年の該当日は、1月21日、2月18日、3月21日、3月24日、5月26日、7月4日、8月25日、9月1日、11月27日、12月25日、12月26日です。なお、休業日および取引停止日は変更される場合があります。

当資料のご利用にあたっての注意事項等

当ファンドは、主に公社債を投資対象としますので、公社債等の有価証券市場の相場変動、組入有価証券の発行者の信用状況の変化等により、当ファンドの基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替の変動により損失を被ることがあります。したがって、投資家のみなさまの投資元金が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。当ファンドの主な投資リスクとして、組入有価証券の価格変動リスクや為替変動リスク等があります。

詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「基本情報 リスク」をご覧ください。

投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、貯金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。/ 金融商品取引業者以外の金融機関は、投資者保護基金に加入しておりません。/ 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。/ 投資信託の取得のお申込みを行う場合は、販売会社よりお渡りする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。/ 投資信託は、書面による契約の解除(クーリング・オフ)の適用はありません。/ 運用により信託財産に生じた損益はすべて投資家のみなさまに帰属します。

当資料は、当ファンドの運用状況をお知らせするために三菱UFJ投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。/ 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。/ 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。/ 当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

市況動向および資金動向等により、ファンドの基本方針通りの運用が行えない場合があります。

(お申込みの際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。)

設定・運用 ...三菱UFJ投信株式会社
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
 加入協会 (社)投資信託協会/(社)日本証券投資顧問業協会
 <お客様専用フリーダイヤル> 0120-151034 (毎営業日の9:00~17:00)
 <オフィシャルサイト> <http://www.am.mufg.jp/>
 基準価額・分配金をメール配信 <http://k.m-muam.jp/a/1/3>
 (*メール配信対象外ファンドもあります。*)

グローバル・エマージング・ボンド・オープン【愛称：受取物語】
当ファンドにかかるリスクについて

当ファンドへの投資にあたっては、主に以下のリスクを伴います。このため、お申込みの際は、当ファンドのリスクを認識・検討し、慎重に投資のご判断を行っていただく必要があります。

市場リスク	<p>(価格変動リスク) 当ファンドは、公社債を主要投資対象とし、公社債の投資に係る価格変動リスクを伴います。一般に、公社債の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、当ファンドはその影響を受け公社債の価格が下落した場合には基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p> <p>(為替変動リスク) 主要投資対象である海外の公社債は外貨建資産ですので、為替変動の影響を受けます。そのため、為替相場が円高方向に進んだ場合には、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
信用リスク	<p>信用リスクとは、有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等に、当該有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払いや償還金の支払いが滞る等の債務が不履行となること等をいいます。当ファンドは、信用リスクを伴い、その影響を受けますので、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
流動性リスク	<p>有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない、または取引が不可能となるリスクのことを流動性リスクといい、当ファンドはそのリスクを伴います。例えば、組み入れている公社債の売却を十分な流動性の下で行えないときは、市場実勢から期待される価格で売却できない可能性があります。この場合、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。</p>
カントリーリスク	<p>新興国への投資は、先進国への投資を行う場合に比べ、投資対象国におけるクーデターや重大な政治体制の変更、資産凍結を含む重大な規制の導入、政府のデフォルト等の発生による影響を受けることにより、市場・信用・流動性の各リスクが大きくなる可能性があります。この場合、基準価額の下落により損失を被り、投資元金を割り込む可能性が高まる可能性があります。</p>
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・当ファンドは、一定の運用成果を保証するものではありません。 ・当ファンドは、原則として毎期収益分配を行う方針ですが、毎期一定水準の収益分配金の支払いを保証するものではなく、収益分配金額は運用実績に応じて変動します。 なお、分配対象収益が少額の場合には、収益分配を行わないことがあります。

3ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項等」をご覧ください。

